

マルコ 1 : 14-20

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」。今日もこのミサの中で、ここに集まっているわたしたちにイエスはこのように呼びかけておられます。イエスが訪れてくださり、いてくださるところに時は満ち、神の国は近づいているのです。このミサのひと時がそのような時、そのようなところとなることを願いたいと思います。「時は満ち、神の国は近づいた」。イエスのこのことばは、今朗読されたマルコ福音書によれば、ガリラヤにいられたイエスがこのように宣言されたことばです。イエスのこのことばが今日もわたしたちの心に響いたことによって、わたしたちもわたしたちのガリラヤのような日々の中から、イエスのもとに呼び集められてきました。それは、イエスのもとでもっとはつきりこのことばに心打たれるためです。イエスのこの呼びかけに心打たれそれを受け入れて信じる事が出来る時、わたしたちのガリラヤのような日々の勤めの中で回心が始まります。

旧約のコヘレトのことばにあるように、すべてのものには時があるのです。天地の創造主である神は時の支配者でもあります。神はすべてのものに時を用意していただきます。神が用意して下さる時を知った者たちは、その時の来ることを辛抱強く待たねばなりません。今は大寒の季節、時のめぐりを知っている人は、今このとき、春の訪れの期待に胸を高鳴らせながら待つものです。待つということはただ辛抱を強いるだけではありません。時が神の支配のもとにあることを知っている人は、凍えるような寒さの中でも、いつか確実に訪れる春を辛抱強く待つことを知っているはずです。季節のめぐりと人生のときとの間には確かに違いがあります。わたしたちが生きるそれぞれの人生のときは、予測不可能な出来事が待ち受けています。けれども、キリスト教の信仰に救いを見出したわたしたちは、確かな春を待つことの出来る根拠を見出したはずです。思いもかけぬ十字架の彼方に、イエスの復活が指し示している春が来ることを、わたしたちは知ることができたのです。

今日の第一朗読のヨナ書が語って聞かせているように、預言者自身にはありえないと思っていたニネベの未来を神は用意して下さったのです。神とはそのようなお方です。神のなさり方を知っていたヨナは、ニネベの都を神がどのようになさるかを見届けようとしたのでした。神はヨナが予測していた通りに、ニネベの人々の罪をゆるして下さったのです。これがヨナ書からの今日のわたしたちへのメッセージです。神を信じるとは、時の経過の中で不可能と思われることを一瞬にして可能として下さる神の力を信じるということ

す。春は暗くて寒いと言っている者たちの中に突然やってくるのです。

イエスがガリラヤで福音を告げ始められて時もそのようでした。ガリラヤはダビデによって建てられた王国が北と南に分裂したあと、アッシリアによって滅ぼされたとき以来、長い冬の時代を過ごして来たのです。ユダヤの民からさえ異邦人のガリラヤと呼ばれるような境遇に甘んじてきたのです。異邦人のガリラヤとはイスラエルの民に約束されていた契約による神の祝福に与ることができないものとなってしまったことを意味しています。彼らはもはやアブラハムの子らとは見なされないよそ者とされてしまっていたのです。けれども、アブラハムを呼び出された神はアブラハムの子孫である彼らを忘れてはおられなかったのです。神が遣わされたイスラエルの民が待ち焦がれていたメシア・キリストはガリラヤの人々のところに来て、彼らが神に打ち捨てられているのではないことを告げ知らせてくださったのです。ガリラヤに来られたイエスはそのような福音をもたらされたのです。ガリラヤ湖の漁師であった最初の弟子たちを呼び出されたイエスは、アブラハムを呼び出された神と同じようにして、新しい神の民を生み出そうとしておられるのです。

アブラハムが神の呼びかけに応じて故郷を後にしてようにイエスに声をかけられて最初の弟子たちも、それまでの生活を捨てて、イエスの後に付き従ったのでした。アブラハムと呼ばれた神が、常にアブラハムとその子孫とともにいて彼らの行く手を導かれたように、今やイエスは弟子たちとともにいて彼らの新たな行く手を開いて下さるのです。そしてイエスに導かれる彼の行く手はイエスの十字架の死を超えた復活のいのちへとつながっているのです。弟子たちを呼び出されたイエスが弟子たちを連れて行こうとしておられる目的地はそこにあるのです。弟子たちがイエスに従って歩んだ日々の上に流れた時は、イエスを遣わされた父である神が彼らのために取って置かれた永遠のときへと至りつくのです。

今日わたしたちの高円寺教会では 2015 年の信徒総会が開催されます。このわたしたちの総会が目指していることも、高円寺教会でイエスに結ばれた全ての信仰における兄弟姉妹が、今のこの時をとも生き、神がイエスを通して導こうとされている神のみもとに至ることを願い求めて新たに歩み始めることです。いったんはイエスの呼びかけに応じてともに歩み始めた全ての兄弟姉妹が一人も失われることなく、永遠の安息の地に導きいれられることこそが、わたしたちの共同体の最終的な目標です。この一年のわたしたちの営みはその目標からそれることのないようこのミサを通して祈りあいましょう。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高